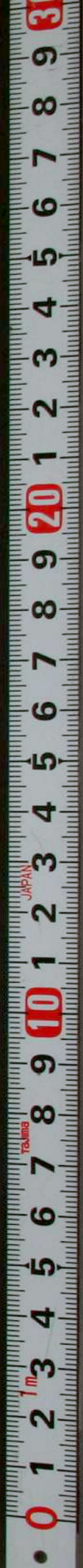
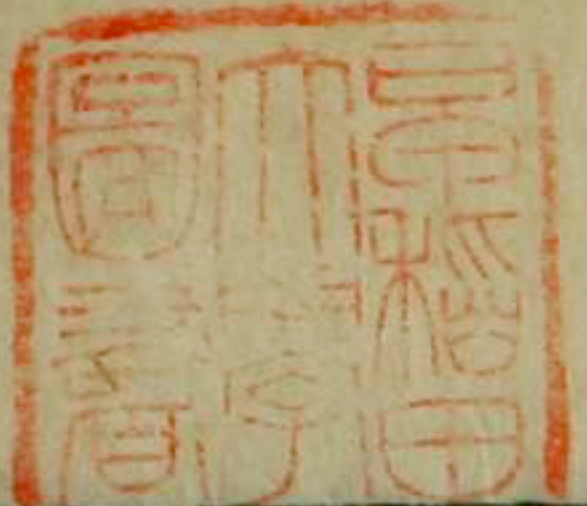


ヤ 9
961
1



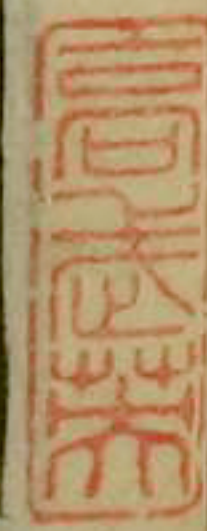
門 79
號 961
卷 1

門 79
號 968
卷 1



婦人身草序

聖人孝と悦めよ身許髪膚と毆傷らるる心と妬と
あど道はれしあひ後世よ父母と顔と心と終と
あふ不孝なりあも多し中けりらるる心と身はあな
まは朝とせしむること安んじに似ての心とあらり
のあはれとせらるる道れらるる心ははしと
あはれとせらるる心ははしと
運ひ糸ふもひとりのりやうなれとせらるる心ははしと
付し妻ありの氣血そらうとせらるる心ははしと
声垣のるらうとせらるる心ははしと
とせらるる心ははしと



母にまゝにさへては後世も傳ひてをりては
予備の朋友に始終をわらひては樹門
こゝにさへて付てさへて命せしは御恩なる身
とて楊麻のさへて筆をて書はてまじりて
萬の業にくりてけ書の面付たる魚をれは海
せしめんさへて下跡を記してをぬりて
意にさへてのさへて

豊前中津伯

坂部彌生書

婦人專草例言

一 け書の婦人嗣よりむらり形らと妊娠十月に
間の保赤産ほ百目をその楊養のゆを成
唐とれ文にむさへては邦れ文字よわら
もまゝの家 國のいひまゝさへて守まらぬの
とまゝさへて書はらむゆりぬをの文書はに
け書よまゝさへてけらりゆりゆりまゝに
後生子のあらは妊娠の胎を産後の楊養ら
にかたむくはれ痛たぐやれくもやれなから
後病と病をあらはるともまゝさへて草は根
さへてわらぬ

け書よ世裁るふの諸説これ誰人れ流河のせよ
いふくともその世裁るふをいふててを流河の世裁
とあり非と矯てまゝゆらに容字のまゝある所
とふとこれら胸臆の私とていふてをそりにせ
あつてあるゆゑとありはるゝ
一 采劄の流産前後の法古書よ裁るふ甚多く
志くもこれを流産多れしは多ひらに流産なり
かきくも理物なまれし明くは辨しむきしけ
世よ裁るふを世俗日用よそよりあるもの
りともありはるゝしひるなり

諸の醫書よ采劄前後に茶方ありけ世よ

世裁るふ世裁るふといふはありは茶方とかの
りともありはるゝしひるなり
て膝用しむき多しむきとてをそりに
そありて世俗日用の茶方ありはるゝ
こころとして世裁るふありぬ

け書文と假名よやうけらるゝありはるゝし
訓よしむき多しむきとてをそりに
押通しむき多しむきとてをそりに
け編るふ世裁るふの世裁るふありはるゝし
めはるゝしむき多しむきとてをそりに

識拙しきして盛衰の常とてしるは負ひ
 推らるる書友とて母に辭せしむる人よ
 あらうとておとれたるもせし毎にわかれられ
 けしとて胎せしむるはあはれなること
 しゆりぬけたりと客才の人れをわかれ
 ことそと世儀のまらし後たるのまされし
 人又これいやはたと知ふことなき考へ
 縁これひと縁くおんはるるゆりさの幸
 元禄壬申孟秋下弦日

海和後学 貞菴香月啓益書

婦人壽草目録

卷上一

- 才一 求嗣の説 七丁メ
- 才二 子を産者産神に誘ふ説 十七丁メ
- 才三 子を産者産神に誘ふ説 十九丁メ
- 才四 夫婦交媾日時の説 九丁メ

卷上二

- 才五 子と求るれ説 一丁メ
- 才六 子と求るれ説 四丁メ
- 才七 子と求るれ説 九丁メ
- 才八 受胎の説 十三丁メ

第九 胎胎此説

十八丁メ

卷中二

第十 胎胎此説

一丁メ

第十一 妊婦念忘此説

六丁メ

第十二 妊婦茶忌此説

八丁メ

第十三 妊婦胎と驗る此説

九丁メ

第十四 胎内の児男女と志す此説

九丁メ

第十五 胎内の児男女と志す兼此説

十丁メ

第十六 女と辨して男と志す此説

十三丁メ

第十七 妊婦腰腹に帯とゆふ此説

十五丁メ

第十八 産前此説

十七丁メ

二ノ五

第十九 胎自墮此説

九六丁メ

卷中三

第二十 妊婦胎下へ帯産と辨る此説

一丁メ

第二十一 胎内形體此説

四丁メ

第二十二 産月へもて是流下産此説

四丁メ

第二十三 逐月胎と産る此説

八丁メ

第二十四 産前治法此説

十二丁メ

第二十五 妊婦産園兼禁視此説

十六丁メ

第二十六 産月へ入て重産此説

九二丁メ

第二十七 産婦胎月へ六父母の家へ返る此説

九六丁メ

卷下

卷下六	胎後調護の法	一丁メ
卷下六	胎後食治の法	九丁メ
卷下六	胎後諸病の法	十四丁メ
卷下六	胎後乳汁の法	九四丁メ
卷下六	胎後梅毒の法	九五丁メ
婦人本草自録		

婦人本草卷上一

胎前晚出

香月啓巻纂輯

① 求嗣の法

○夫人の夫婦天地の道とて天地和合して万物生ずるは夫婦夫婦として男女生ずるは人の道なりとて道をたれとていふものいはれうふまよふとて人の道なりとて道をたれとていふものいはれうふたといふ偏といふとれとて君臣父子夫婦兄弟朋友となり君臣の忠義と父子の親孝と兄弟の友愛と朋友の信義とこれ夫婦ありての道なりとていふものいはれうふ人倫の道なりとていふものいはれうふ造るとして祝盃子の珍よと後叙といふことと人倫の道なり

むすして武王と没くし平のの種達歸しつゝ人の書十二
にして子と聲はと措記をしつゝ書も裁きりて木の教本
物にもまうぬるゝのりきう種を各人のの變らして
つゝさして編しつゝいひるらん

○果え方乃尻まふるゝ因縁とありつゝの境裏風水不
新二よま支那年命相克とよま瘡痛とつり境裏風水
不和とい唐土よ風水ぬとて漢陽家の教して又別よ一
流りの又地味とあつゝいひの字の風水の形勢と考へて
或は家とつり骨と建と一或は墳とつりゝ方位とつり
つりたりとつりまれば性よりとつり方位より
或は風水の形勢よりつりその方位よ墳とつり字ハ

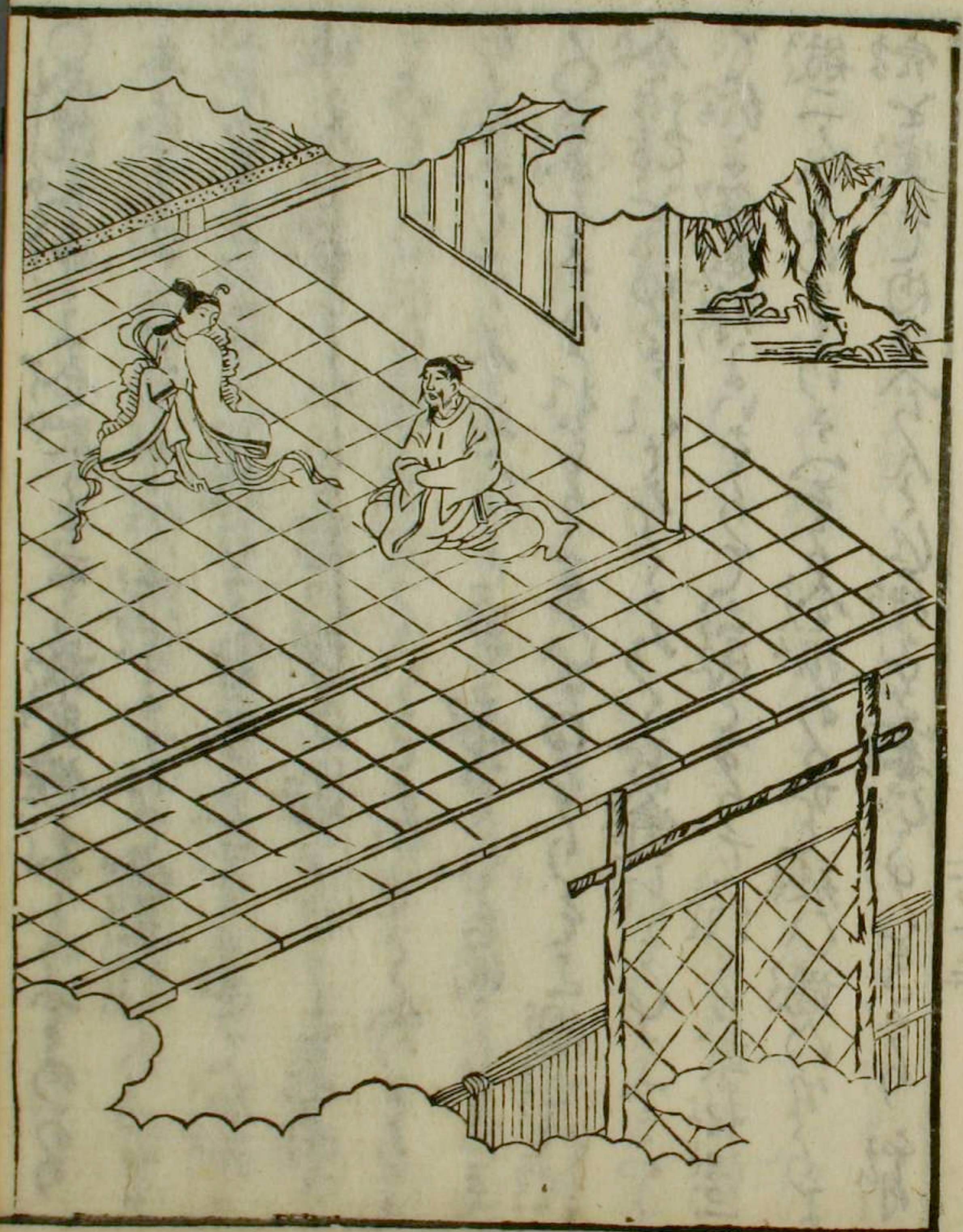
子孫壘骨一彼が位よ種けいなるゝ後裔也新機
とつりといやとあり萬年とつり人ヶ理教目抄とつり書よ
くゝとつり申花とつりよへいひりとつり種とつり
よつりて親とつりしに先地味とつり或は葬所とつり
葬所の形勢とつり或は風水の形勢とつり
くゝとつり教とつりいひるゝの骨とつり種とつり
或は天とつりいひるゝの骨とつり種とつり
或は地とつりいひるゝの骨とつり種とつり
或は水とつりいひるゝの骨とつり種とつり
或は火とつりいひるゝの骨とつり種とつり
或は風とつりいひるゝの骨とつり種とつり
或は土とつりいひるゝの骨とつり種とつり
或は金とつりいひるゝの骨とつり種とつり
或は木とつりいひるゝの骨とつり種とつり
或は石とつりいひるゝの骨とつり種とつり
或は草とつりいひるゝの骨とつり種とつり
或は花とつりいひるゝの骨とつり種とつり
或は鳥とつりいひるゝの骨とつり種とつり
或は虫とつりいひるゝの骨とつり種とつり
或は魚とつりいひるゝの骨とつり種とつり
或は獸とつりいひるゝの骨とつり種とつり
或は人とつりいひるゝの骨とつり種とつり

○陳自明の花よ人の製織さごとく野子の陽光不き
ゆふの浪血塵弱あひまをくつくり病よれられくひぬ
ありまゝの醫をたれまをたれまをまひまをまを
とまをまをの道まをまをのまをのまをのまをのまをのまをのまをのまをの
製まをのまをのまをのまをのまをのまをのまをのまをのまをのまをの
本日のおひき悪逆なるゆゑまをのまをのまをのまをのまをのまをのまをの
命のまをのまをのまをのまをのまをのまをのまをのまをのまをのまをの
とあゝまをのまをのまをのまをのまをのまをのまをのまをのまをのまをの
一重とまをのまをの天帝の製織自製一感通してまをのまをの
まをのまをのまをのまをのまをのまをのまをのまをのまをのまをのまをの

とつ〜〜〜いひ〜〜

○西邦みといひ人の父老てまを〜人の製と買入
けあつ〜〜〜居れ〜〜〜は〜〜〜たれ〜〜〜と〜
〜〜〜と〜〜〜と邦み父あ〜〜〜たれ〜〜〜い〜
〜〜〜にせめん〜〜〜たれ〜〜〜あが〜〜〜く〜〜〜父の獄〜
〜〜〜に死せりあま〜〜〜たれ〜〜〜た〜〜〜あが〜
〜〜〜父の妻葬りの〜〜〜ことな〜〜〜は〜〜〜あ〜
〜〜〜邦み父たれとあ〜〜〜金銀とま〜〜〜の〜
〜〜〜ま〜〜〜あ〜〜〜ゆ〜〜〜て葬れ〜〜〜る〜
〜〜〜い〜〜〜年月と後〜〜〜て邦みと葬と邦
〜〜〜問天下よかま〜〜〜あり翰林學士といひ

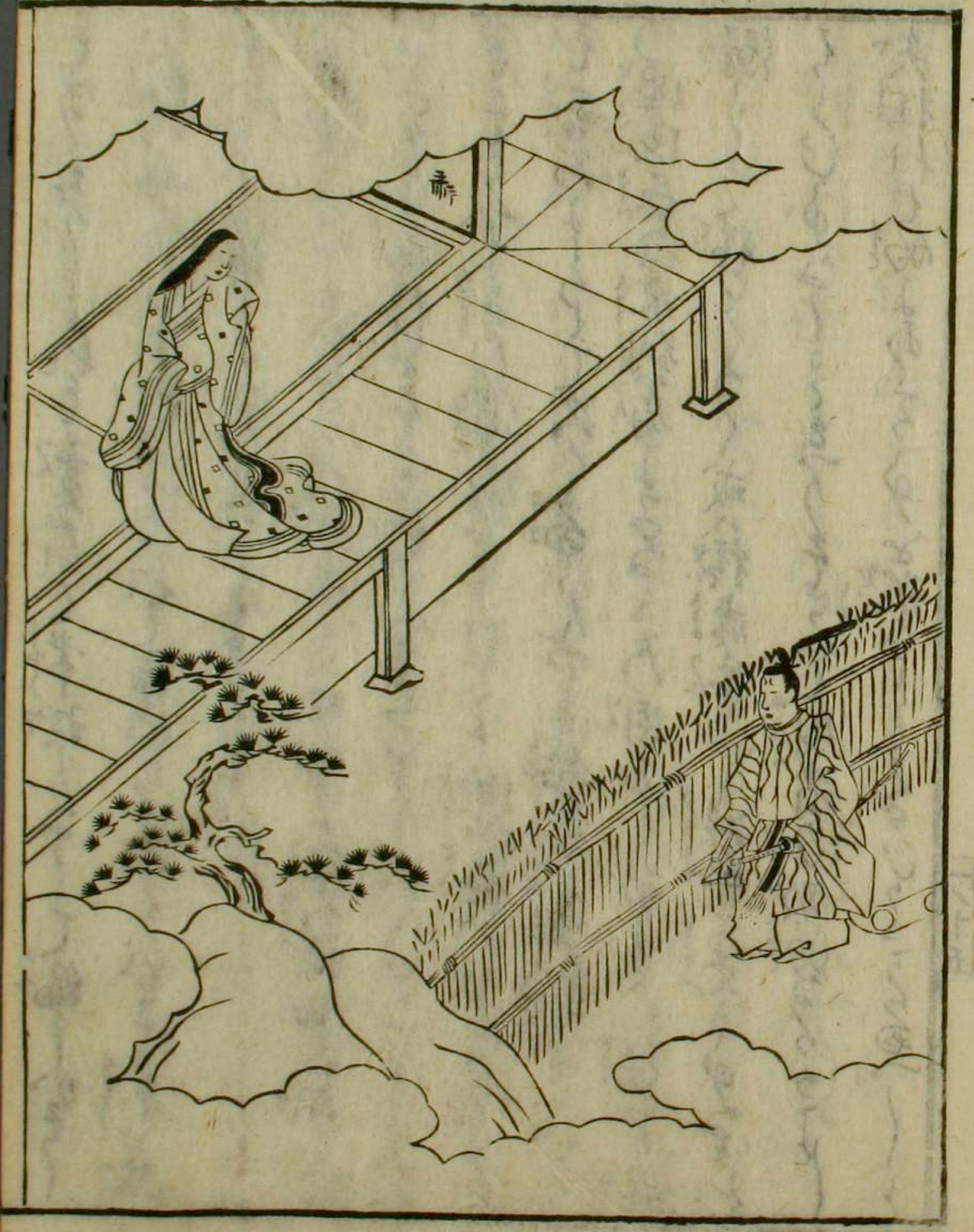
任に侍従充満子孫秘傳家とてつらつらまじひて
 人これに嗣續さし登別といふ所のなりとありて
 毎日御金り飛人といふをせしめ料の極をせしめて
 子よ養回して死にせしむる事ありてありて一日
 子孫の申しにいとむらさきの衣冠をせしむる事あり
 子と女子とのくく入つた石よりくくくくくくく
 してこそより誓ていづく母とて嗣續さしとありて
 人と活るとありてありてありてありてありてあり
 母よそもあつた男女各一人といふ事ありてありて
 ありてありてありてありてありてありてありてあり
 邦ありてありてありてありてありてありてありてあり



今よかたろるゆなく唐土の船毎として婦人の悲情あり
これ聖人の立教よも婦人に七種の去りあり婦人の悲情あり
るゆに二よあまそり佛教よも不成佛の者三種あり婦
人の悲情ありひらのなれし傷病よもに戒しるゆに婦人の悲情あり
情物よも両心火の熾むことさく火物を消滅するの理を
是と真徳の水と痰耗とをこと一水火火は暗と明といふ
此は婦人の物なりしことさくしるゆに婦人の悲情あり
と或は流しをたすまうしは或は多病よもして意味あり情物
の哀言れ篇よも天下を平なれし婦人そのらんてあり
と楊氏の節よも婦人の悲情ありとこれ内外を平しして子
のるといふ事とらるるゆに婦人の悲情あり

や道徳のつらゆの二軍 あたらふは流流の海は方二十五百人と軍とらる
とあれは二軍一軍方七千と百人とよりなり
をも奪つてあひありしを國房の志も威れらるるゆに
く智恵の六合 天徳は方と
とあれは二軍一軍方七千と百人とよりなりよあまの多れは淋粉よりくは
かそく首と物を肩とをせして婦人の悲情ありとらるるゆに
此 とあれは二軍一軍方七千と百人とよりなりそりてなれしゆに婦人の悲情あり
はひそるるゆに朝来一の好交を系り何れもそり
の女は龍田の奇よもらして安ら置よゆに婦人の悲情あり
是婦人の情物とをさくしるゆに婦人の悲情あり
あまのしるるゆに婦人の悲情あり
○畢竟の流よもしるゆに婦人の悲情あり
先づ流ありとらるるゆに婦人の悲情あり

中來とく書よして薬を用いしに經水或は毎月の初より
 前或は期より後れ或は經水下りてほいそとるは皆虚
 証なり又經水少りて又清きもの血虚なり經ありて
 もの血虚なり又經水りらんうて痛甚く或は胎墜て散
 てさけ血滞るに經水の久び赤或は黒又血滞つて熱とこし
 こしといつり心との熱症ありてよくらりてとまり醫
 師よきて薬と胎に經水どうの久しらんやれといふは
 時珍の流し經水の毎月一度ゆくとの常なり或は二月一度
 ゆくものありこれと吾師と名づく一年より一度ゆくもの
 これと避年と名づく一生經水のりて胎とくくるもの
 ありこれと胎前と名づくるなりと云りてまアノの類今何



貞溪の骨髄と遺精とをいふ日房然とすまじり西午
 丁この日汗ばたよ火なれと程多戒じらり夏月
 後雨丁の日房ふいと禁とすし金方一裁そらせば
 さいり倭治西午の男と女とらり西午の女男とら
 ととりまもいささうしー

○甲子の日と禁とらるとのハ甲ハ本ノ屬して天ノ陽干ノ
 始なりあたらし我ハ乾なりと本ハ禁よまてうらとこととあうてハ
 始なりあたらし我ハ乾なりと本ハ禁よまてうらとこととあうてハ
 屬して地ノ濕なり始なりあたらし我ハ乾なりと本ハ禁よまてうらとこととあうてハ
 月冬は陽來後とて陰なりとて陽氣始てとて先甲子
 の日と始よまて曆えらして曆とつらり干菜の始り菜の始



わらうんてんまじと保はくまくと流めまはむせの陽を
こしてまじり素向くも激勝とて陽病とわれし念を激
愈し屬して本の整生の陽をむむとむむと人せむる魚肝
の養をかかれ肺の養をたこまらしてまじり
たつらぬ瘰癧の殺す人の陽をまじりて
合穀の宜いよと眼をむむとむむと
ぬくま教まじりて陽をむむとむむと
ろアもまじり日齊戒体活し公身と清潔として居
と戒らむ

○上陰の日に毎月朔の八日なり下陰の日に毎月廿二日なり
或月の大がまじりて少の遠われし七日廿二日のまじりて
二ノ九二

天此の字候の運の日月れ能およそまじりてのまじり考
ろろまじり甲子まじりてまじりてまじりて
り下下も合してまじりて甲子と
り始じて通流糸編若帝の紀よのせまじりかむのま
干もして万物の始てまじりて何れとい日房然とまじり
んりせむの陽をまじりてまじりて

○庚申の日に禁じらる道藏經の書よ庚申の日に齊
戒体活し公身と清潔として一戒除らむと禁して雞の
あまのまじりて庚申とまじりてまじりて人の方申よと
のまじりてまじりてまじりてまじりて
と天帝よつぐらなり勞瘵の病とまじりての必庚申とま

ろくと載そりりや物をもはなさらむりゆりてもちろ
然中天王の御法は附合してありしと皇の苦あり
とのいを承好むのち様田彦の神明は附合して皇の
御と申し訓通とありしとありてありしと都鄙は唐申
の堂社と建之し家毎にありし毎に御と申し皇の
神仏とあひして尊敬とありし浮世巫祝の類は皇の
ふし御とありし御と申し市街は御と申し皇の御と
世と御とありし財と申し皇の御と申し皇の御と申し
金金克本とて金に能本より本に皇の御と申し皇の
世と申し皇の御と申し皇の御と申し皇の御と申し皇の
の天子はありしとありしとありしとありしとありしと

ありありをよ月より張の四舟渡の祝し人身の渡の
清長月の御缺よとありしとありしとありしとありしと
缺の御渡血と清とありしとありしとありしとありしと
そり下法八月の御中分よありしとありしとありしと
一し格致御海よとありしとありしとありしとありしと
外と禁とありしとありしとありしとありしとありしと
てありしとありしとありしとありしとありしとありしと
くありしとありしとありしとありしとありしとありしと

○正月 ありしとありしとありしとありしとありしとありしと
毎月十六日よ八月と日と相違し月渡の格銀盤の御とありしと
てありしとありしとありしとありしとありしとありしと

お月日の光を月と云ふは月朔日と云ふは
舎合してと云ふは月と云ふは月朔日と云ふは
かつ日の光を月と云ふは月朔日と云ふは
よきまつて月と云ふは月朔日と云ふは
らと云ふは月と云ふは月朔日と云ふは
ては面と云ふは月と云ふは月朔日と云ふは
とては月と云ふは月朔日と云ふは
の陰を月と云ふは月朔日と云ふは
○毎月 毎月九日よりの月朔日 毎月九日よりの月朔日
つとりの月朔日よりの月朔日 毎月九日よりの月朔日
お紙の月朔日よりの月朔日 毎月九日よりの月朔日
と云ふは月朔日よりの月朔日 毎月九日よりの月朔日
の裏面の月朔日よりの月朔日 毎月九日よりの月朔日

いある月朔日始月朔日終これと云ふは月朔日と云ふは
己衰衝の月朔日始月朔日終これと云ふは月朔日と云ふは
ニと云ふは月朔日始月朔日終これと云ふは月朔日と云ふは
日と云ふは月朔日始月朔日終これと云ふは月朔日と云ふは
○大風大雷極思極思雷極思月朔日始月朔日終これと云ふは月朔日と云ふは
志の月朔日始月朔日終これと云ふは月朔日と云ふは
ひと云ふは月朔日始月朔日終これと云ふは月朔日と云ふは
○神廟の傍に極思極思雷極思月朔日始月朔日終これと云ふは月朔日と云ふは
ひと云ふは月朔日始月朔日終これと云ふは月朔日と云ふは
ものいんと云ふは月朔日始月朔日終これと云ふは月朔日と云ふは
よと云ふは月朔日始月朔日終これと云ふは月朔日と云ふは

一ノ九六
 一ノ九七
 一ノ九八
 一ノ九九
 二ノ〇〇

